

# 新貧乏物語

# あれから100年 消えぬ格差 序章

河上は物語の中で、英國など当時の先進国の例を引きながら、ある指摘をしている。体の健康を維持する費用のみがわれわれの生活に必要な費用の全部ではない。(中略)貧乏線以下の人々をもって貧乏人に編入するのみならず、あたかもその線の真上に乗りおる人々をもやはり貧乏人として計上するのである。

食べるに困らなければいけでない。社会の真ん中からいっぽれ落ち、底邊すればそれで苦悩する人々も、また貧困である。かみ砕けば、そういう意味。ならば今、私たち日本人は河上の指摘を、過去のものとして片付けられるだろ?つか。

内閣府が一四年に公表したデータによると、日本は決して豊かな国とはいえないようだ。国内の所得格差を表す相対的貧困率は、経済協力開発機構(OECD)に加盟する三十四カ国の中、イスラエ

（一）一六年が始まった。ちよつと一百年前、日本で初めて労働者を保護する「工場法」が施行された一九一六年（大正五年）。こんな書き出しの評論が世に生まれた。  
驚くべきは現時の文明国における多数人の貧乏である。  
著者は経済学者、河上肇（一八七九—一九四六年）。近代日本の本格的な貧困研究として、ベストセラーになつた「貧乏物語」だ。

## 心と体に及ぼす大害



昨年末、公園の炊き出しで温かい食べ物を受け取る生活困窮者=名古屋市中区で

（一〇一）六年が始まった。ちょうど二百年前、日本で初めて労働者を保護する「工場法」が施行された（一九一六年〔大正五〕年、「こんな書き出しの評論が世に生まれた。驚くべきは現時の文明国における多数人の貧乏である。著者は経済学者、河上肇（一八七九—一九四六年）。近代日本の本格的な貧困研究として、ベストセラーになつた『貧乏物語』だ。河上は物語の中で、英國など当時の先進国の例を引きながら、ある指摘をしている。

ず、対外侵略による利益拡大に突き進んだ。その果てに待つていた戦争という魔物。この国は、また同じ愚行の入り口に立っているのか。

貧乏人はいかに多くて  
を書いてから百年の年を迎えた今も、格差が生む貧困がこの国に存在する。  
そう。河上が「貧乏物語」  
母子家庭の貧困率は、加盟国で最悪の50・8%に入る。

両親が離婚。母は自分を育ててくれたが、小遣いをもらつたことはない。大学の学費を自分で稼ぐため、二十八日間ぶつ通しで店に入つた」ともある。

「すげーな。友人たちはそう言つてくれたが、胸の中ではつぶやいた。「親の金で勉強できるおまえたちが、うらやましいよ」

私が人の肉体及び精神の上に大害を及ぼすという事は、必ずしも小学校児童に限られているわけではない。

東日本大地震から今年三月で五年を迎える東北地方。仙台市の高校教師(三)は不安定化で専任教師の枠が減り群馬、茨城、宮城県の高校で非正規の教員として転々。懸命に働いても、年収は貧困のボーダーラインとされる三百万円に遠く及ばない。

この生活苦がいつまで続つか、いや、抜け出せるかどうかも分からぬ。「もう、つかも分からぬ。」一人暮らしの年の瀬は、「飯と冷凍食品だけでのいだ。若い世代だけではない。昨年のベストセラー「下流者」の著者で、NPO法人代表理事の藤田孝典さんは警鐘を鳴らす。

うも指摘している。ついでわれわれの今問題としている貧乏の根柢思

用のみがわれわれの生活に必要な費用の全部ではない。(中略)貧乏線以下にいる人々をもって貧乏人に編入するのみならず、あたかもその線の真上に乗りおる人々をもやはり貧乏人として計上するのである。

A black and white photograph showing a group of people, including children, gathered around a large pot of food being cooked outdoors at night. The scene is dimly lit by the fire under the pot, creating a sense of community and warmth.

の世代に頼れず、過疎化する  
地方で地域社会からも孤立す  
るお年寄りが増えている。そ  
の状況で大きな病気やけがをさ  
すれば、現役時に豊かだった人  
でも貧困に陥りかねない「  
河上の時代」も平成の今も、  
貧困は社会の隅々にはびこ  
る厄介者だ。戦前を考えれば、  
あのころの日本は大地主と小  
作人、財閥と零細業者といっ  
た途方もない格差に目を向く

河上こうじょうが説いた「多数人の貧乏」は平成の今も変わらない。それは、モノや食料が足りない貧乏ではなく、格差が大きい。それが、社会が生み出す相対的な貧困なのだ。貧乏物語から百年の年に、私たちの時代が抱える貧乏感と同じだった。連載された第一回「悲しき奨学金」を近くスタートする

**貧乏物語**（京都帝国大（現在の京都大）教  
授だった河上肇写真）が1916年9月11日から12月26日にかけて、大阪朝日新聞に連載した評論。翌年に弘文堂から出版された。47年に岩波文庫、近年では2008年に新日本出版社から再版された。英

國への留学経験を踏まえて「金持ちが奢侈品（しゃしゅ）」せいいたく）をやめることで、富裕層と貧困の格差をなくす」との大切さを説き、国際社会の生産力を真新しい人々に向けるべきだと主張。河上はその後、政治活動に傾倒して治安維持法違反容疑で逮捕され、晩年は著作活動に専念した。

# しわ寄せ 今も弱者に

1916(大正5) ▶ 河上肇が「貧乏物語」の新聞連載を開始

▶ 労働者を保護する工場法が施行

18(7) ▶ 米騒動発生 1

23(12) ▶ 関東大震災

29(昭和4) ▶ 世界恐慌。日本も昭和恐慌へ

41(16) ▶ 日米開戦。米の配給制始まる

45(20) ▶ 終戦 2

47(22) ▶ 労働基準法が施行

50(25) ▶ 朝鮮戦争。日本は特需景気

▶ 生活保護法が施行

56(31) ▶ 経済白書「もはや戦後ではない」

60(35) ▶ 池田内閣が所得倍増計画発表

66(41) ▶ 人口1億人超える

68(43) ▶ 国民総生産(GNP)が米国に次ぐ2位に

73(48) ▶ 第1次石油危機

▶ 国の調査で「中流意識」を持つ層が9割を突破

86(61) ▶ 男女雇用機会均等法が施行

89(平成元) ▶ 3%の消費税導入

91(3) ▶ バブル崩壊 3

95(7) ▶ 阪神大震災

97(9) ▶ 消費税率5%に引き上げ

2000(12) ▶ 介護保険スタート

01(13) ▶ 小泉内閣発足

03(15) ▶ 母子家庭が約40年ぶりに100万世帯を超える

08(20) ▶ リーマン・ショック。4 日経平均株価「年越し派遣村」が出現

10(22) ▶ 国内総生産(GDP)で中国に抜かれ世界3位に

11(23) ▶ 東日本大震災。  
福島第一原発事故

▶ 児童扶養手当受給者が初めて100万人を超える

▶ 大卒の就職率が過去最低の91%

12(24) ▶ 安倍晋三首相が経済政策「アベノミクス」を打ち出す

▶ 相対的貧困率16.1%

子どもの貧困率16.3%

で、いずれも過去最悪

13(25) ▶ 国の調査で生活が「大変苦しい」と答え

た世帯が27.7%に

14(26) ▶ 子どもの貧困対策法が施行 5

▶ 消費税率8%に引き上げ

15(27) ▶ 生活保護受給が最多の162万世帯に

16(28) ▶ 「貧乏物語」から100年

